

サポクラ 通信

令和5年(2023年)5月号

今月の内容は...

- ・知らなかったゾウのあれこれ1
- ・ゴマフアザラシが出産しました5
- ・「よろしくね」~コツメカワウソ8

知らなかったゾウのあれこれ



サポートクラブのみなさま初めまして！
今年度からアジアゾウ担当となりました、
上野です！
北海道の長い冬も明け、温かくなり春を
感じられるようになってきました！

今回は、自分がアジアゾウ担当になって
ゾウの体について勉強した時に
「そうなんだ！」と思った事や、
実は知らなかったゾウの体のあれこれ
をご紹介します。

1.ゾウの耳

ゾウは体の一部を本来の使い方以外にも活用します。まず、その中の1つが耳です！
耳は本来、音を集めて聴き取る器官なのですが、一体どんな使い方をするのでしょうか？
1つ目の役割が体温調節です。なぜ耳で体温を調節するのかというと、ゾウには汗を出す器官（汗腺）が足の爪の周りにしかないため、汗で体温を調節することができません。そのため、ゾウは耳を前後にパタパタと動かすことで、耳にある血管を冷やし、体温を調節しているのです！
2つ目の役割は威嚇です。耳を大きく広げることで体全体を大きく見せる効果があり、その状態で相手に向かって走って行くことで敵を追い払います！あれだけ大きい動物が、さらに自分を大きく見せて走って来たら、、、と考えると恐ろしいですね。
ちなみに下の写真は採血の様子で、耳の太く大きい血管がわかりやすいため飼育員も活用しています！

太く、大きい耳の血管



耳からの採血トレーニング



2.ゾウの鼻



鼻は、匂いを感知する器官であり、ゾウの嗅覚は哺乳類の中でもとても優れています。

嗅覚は、匂いを感じ取る嗅覚受容体に関する遺伝子が多いほど優れていると言われており、ヒトは約400個、イヌは約800個ですが、ゾウは約2000個と優れた嗅覚を持つ生物ということが2014年の研究で明らかになりました。

その鼻も本来の匂いを嗅ぐ以外の様々な使い方をするのでご紹介したいと思います！

・物をつかむ

ゾウは鼻を人間の腕のような使い方をします。長い鼻は、上唇と一緒に伸びたものであり、骨や軟骨が入っていません。その代わりに、約10万本の筋肉組織で構成されており、鼻は強く、柔軟で、しわが入っていることで伸縮自在に動かすことができます！また、鼻先に突起(指状突起)があり、それを利用することで物をつかんだりする人間の指のような使い方をして餌を食べているのです！

キャベツをつかむとき



枝をつかむとき



・水を飲む

そして、もう1つの使い方は水を飲むことです！では、どのようにして鼻で水を飲んでいるのでしょうか？僕は小さいときに鼻をストローのように使って吸いこんでいると思っていましたが、実は全く違ったのです！

鼻をコップのように使って水を鼻に含んだまま口まで運んで飲みます！

水を飲むとき



3.ゾウの消化

午前の餌



午後の餌



ゾウは1日の大半を採食に使っています、それはどうしてなのでしょう？

左の2枚の写真をご覧ください！

これは、円山動物園で飼育しているアジアゾウ4頭の1日の餌で約200kgあります。もちろん体が大きいからたくさん食べるという理由もありますがそれだけではないのです。

乾草 180 kg、キャベツ 5 kg、ニンジン 2 kg、オレンジ 2 kg、ペレット 6 kg、トレーニング時にリンゴ 4 kg バナナ・サツマイモ 1 kgを与えています。

ゾウは主に草や樹木を食べて生活しているのですが、植物のなかには胃の消化液では完全に消化できないものが含まれます。ゾウを含む胃が1つの草食動物の中では、ゾウは「体の大きさに対する大腸の大きさ」が小さいため栄養が上手く吸収できないのです。そのため、ゾウは、たくさん食べなくては行けないのです！

また、ゾウのうんちには未消化のまま出てきた食べものや種が含まれています。それらが土に還って、また新しい芽が生えてくるため、野生のゾウは移動しながら新しい草原や森を創っていく動物なのです！



ゾウ舎の現在の様子



パールの出産に向けアジアゾウ担当はもちろん円山動物園全体として様々な計画や準備を進めています！



シーシュとニヤインは次の繁殖に向けて同居中です！
屋外に2頭一緒で見られるかもしれません！



春らしい暖かい日が増えてきたので、屋外でゾウの姿が見られるようになってきました！
ぜひ、円山動物園へのお越しをお待ちしております！

ゴマフアザラシが出産しました！

皆さんこんにちは。アザラシ飼育担当の中田です。

ゴマフアザラシ「マシロ」が出産し、現在母仔ともに健康に成長しているのでその経過についてご報告いたします。

誕生



4月13日22時頃に生まれ、胎膜は仔が自分で破りました。

マシロは始め少し驚いた様子もありながら、自分の鼻と仔の鼻を合わせ、自分の仔であることを理解したようでした。

授乳



初めて仔の姿を見た時にはすでに授乳している状態でした。

マシロは今回初産ということもあり、出産がうまくいっても、仔育てしない不安もあったため、最初から授乳シーンを見ることができてホッとしました。

体重測定



約3倍！



生まれた次の日から体重測定を始め、最初は8.3kgだった体重も離乳する生後20日目には25kgほどまで大きくなりました。

泳ぐ練習



始めはぷくぷくと鼻から息が漏れることもありましたが、すぐに水に慣れ、上手に泳げるようになりました。

サブプールは水面から陸地まで段差があり仔が登りづらい状況だったためプールフロアを設置。このプールフロアはイトマンスイミングスクール様から寄贈いただきました。仔のリラックスして休む姿も見ることができ、用意できてよかったです。

離乳、産毛終了



5月3日には離乳し、それと同時に毛が抜け始めました。
5月8日にはすべての産毛が抜け落ち、全身ゴマ模様！



餌を食べる練習



野生のゴマフアザラシの仔は離乳後、餌となる魚を見つけ、自力で捕まえて食べるようになりますが、当園では手渡しで餌を与えているので、ちょっと強引ではありますが強制給餌という方法で魚を餌と覚えてもらいます。

始めはなかなか飲み込まず苦戦しましたが、1週間ほどで口に魚をくわえさせるとスルスルと飲み込むようになりました。

まだお腹が空いていないのか自分からもらいに来ることはないですが、今後自分から餌を求めるようになると思われます。

メインプールデビュー

この原稿を書いている時点では、サブプールでの展示となっていますが、サボクラ通信が発行される頃にはメインプールで自由に泳ぎ回る姿を見ていただけるようになっているかもしれません。

この先も仔が元気に成長していけるよう、飼育員としてサポートしていきます。



愛称募集！

6月1日（木）から6月31日（金）の間、動物園センター内とホッキョクグマ館2階でアザラシの仔の愛称の投票を行います。是非お越しくください。

「よろしくね」～コツメカワウソ～

円山動物園サポートクラブの皆様、いつもご支援いただきありがとうございます。

はじめまして、川口と申します。私は今年4月から円山動物園に配属され、シロテテナガザルとコツメカワウソを担当することとなりました。

毎日が感動と発見の連続で、動物の奥深さを、身をもって感じております。

今回、コツメカワウソの基本情報から近況についてお話ししていく中で、少しでもこうした感覚を皆様にお伝えしていければと思います。

「もう知ってるよ～」と思われる方もいらっしゃると思いますが、一緒に勉強させていただきたいと思っております。最後までお付き合いいただければ幸いです。

～コツメカワウソ基本情報～

学名：*Aonyx cinerea*

英名：Asian Small-clawed Otter

分類：哺乳綱食肉目イタチ科ツメナシカワウソ属

分布：インド、東南アジア、フィリピンのパラワン島、台湾、中国南部

生息地：河川や湖沼、海岸などの水辺の他、水田にも広く生息

食性：主食はカニ類やカタツムリなどの軟体動物、昆虫、小魚。他に齧歯類、へび、両生類など



● 円山動物園のコツメカワウソ

現在、**2頭**のコツメカワウソが暮らしています。

サン (雄)

2011年7月25日サンピアザ水族館生まれ

11歳

性格 {
・ 食いしん坊
・ お腹が空くとよく鳴く
・ 慎重派



イヨカン (雌)

2010年9月26日アドベンチャーワールド生まれ

12歳

性格 {
・ 好奇心旺盛
・ 勇敢



2頭の違いはわかりますか？

よく観察すると、**顔の違い**(目の間隔など)で見分けることができます。

● コツメカワウソの形態的特徴

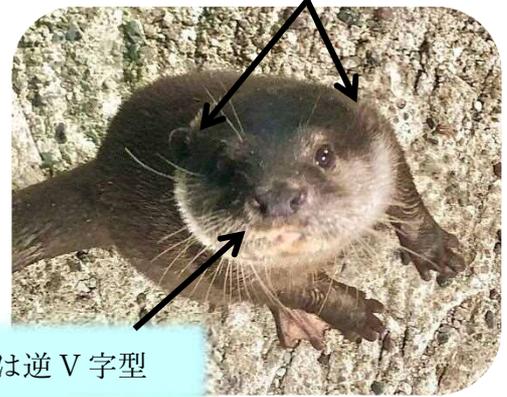
カワウソの仲間では最も小さい
(体長約 40~60cm、体重約 3~6kg)



25~30cm ほどの尾

四肢には水かき

岩に尾を巻き付けて体を固定!



小さな耳

鼻鏡は逆V字型

頭部は短く幅広、頭頂部はほぼ平ら



名前の通り、指先には小さな爪

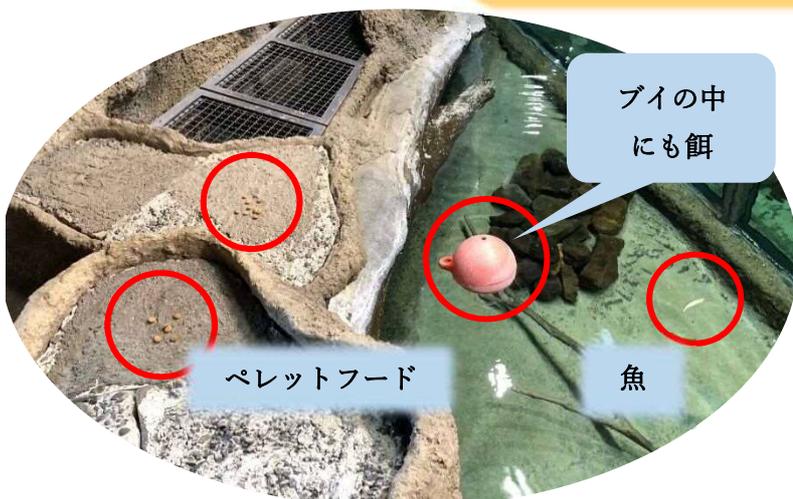
● 環境エンリッチメント

私がコツメカワウソ担当になってからこれまで行ってきたことを、いくつかご紹介します。

【給餌頻度】

これまでは日中眠っていることが多かったのですが、**給餌回数**を増やし、**時間**もランダムに変えたことで、お客様の前で活発に動く時間が長くなりました。

また、餌を探す時間を増やすため、**置き場所**も変えています。



ブイの中にも餌

ペレットフード

魚

コツメカワウソは本来**夜行性**かつ**薄明薄暮性**と言われていますが、飼育下の特殊な環境において、採食か休息かといった**選択肢**をより多く与えることは、**動物福祉の向上**につながると考えています。



【手差し給餌】

体重測定などを動物に負担なく行えるよう、**トレーニング**に向けた準備を行っています。まずは人の**手に慣れてもらう**ため、餌の魚を**手で渡す**頻度を増やしています。

手差しに慣れると同時に、**コミュニケーション**や**社会性**を育む効果も期待できます。

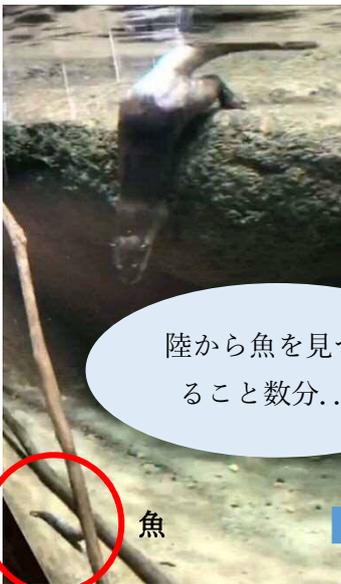
【プールへの^{じゅんち}馴致】

ご存知の方もいると思いますが、向かって左側のプールでは以前、アロワナを飼育していました。

そこが、今年から**カワソク専用の飼育展示場**となり、現在はサンとイヨカン^{じゅんち}を2つの展示場で同時に見ることができます。

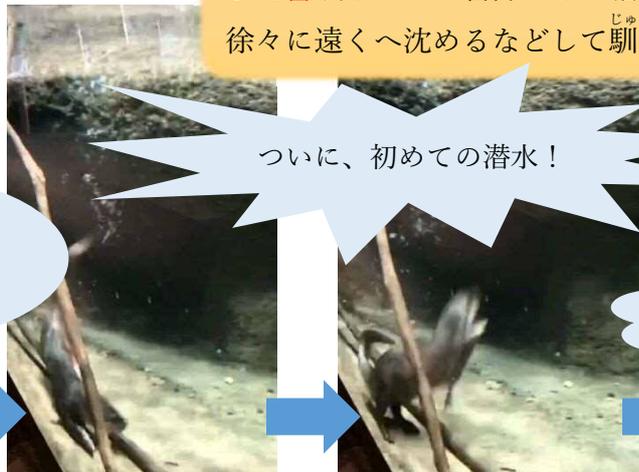
初めはイヨカンから新しいプールに慣らしています。

まだ**警戒**して自分からは潜ろうとしないので、餌の魚を徐々に遠くへ沈めるなどして馴致を進めています。



陸から魚を見つめること数分...

魚



ついに、初めての潜水!



大好物の魚を GET

今後、サンとも交替で慣らしていく予定です。

【ハンモックの活用】

これまで置いていたハンモックは利用していなかったため、カワソクが普段体を乾かし、寝具としても使っている**麻袋**を取り付けてみました。

これまでのハンモック



麻袋



初めは警戒するイヨカン



魚を置いて誘います

すると翌日には…



すっかりお気に入りの場所に

● 最後に

まだまだ未熟ではありますが、これからも試行錯誤と勉強を積み重ね、皆様と一緒に、動物にとってより良い環境を作っていきたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

